



しょう どうじしゃ み しゅうい しょう  
障がい当事者が身につけ、周囲に障がいがあること  
はっしん  
を発信していくためのバッチです。

しょう どうじしゃ しゅうい じぶん しょう  
「つづきチャレンジド」は、障がい当事者が周囲に「自分はこのよう障  
りかい しゅうい こえ  
がいがある」ということを理解してもらい、周囲から声をかけやすくした  
てだすけ ふんいき つくる ばっち み しょう  
り、手助けをしやすい雰囲気を作るため、バッチを身につけることで、障  
どうじしゃがわ しょう はっしん とりくみ  
がい当事者側から障がいがあることを発信していく取り組みです。



しょうがい も ひと あらわ あたり べいご ちようせん  
 チャレンジドとは、「障害を持つ人」を表す新しい米語「the challenged (挑戦とい  
 しめい かだい ちようせん しかく あた ひと ごげん ことば  
 う使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人)」を語源とした言葉です。

みどり  
**【緑のリボンをつけて“応援しよう！”】**  
 おうえん

みどりいろ しょう  
 チャレンジドバッチに「緑色のリボン」をつけることで、障

とうじしゃ かた くわえ おおく かた  
 がい当事者の方に加え、より多くの方にバッチをつけてもら

ふきゆう けいはつ めざ すかつどう  
 い、つづきチャレンジドの普及・啓発を目指す活動です。

イメージ



つづきくしゃかい

このバッチは都筑区社会

ふくしきょうぎかい まどぐち

福祉協議会の窓口で1つ

えん はんばい

100円にて販売しています。

(緑リボン付のバッチも販売しています。)



この取り組みを適切にイメージでき、当事者がつけようという気持ちになり、周囲が障がいがあることに気づけるデザインを一般募集しました。応募があった88点のデザインの中から、障がい当事者団体や有識者などから構成される審査会にて10点が選ばれました。その10点のデザインに対して、一般投票を実施、その後、一般投票結果をふまえた最終選考審査会にて「つづきチャレンジド」のデザインが決定しました。

■主催 バッチでPR～当事者からの発信～実行委員会  
 都筑区社会福祉協議会 障害福祉分科会

■問合せ先 社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会  
 〒224-0006 (担当：宇佐美・大橋)

横浜市都筑区荏田東4-10-3 港北ニュータウンまちづくり館

電話：045-943-4058 FAX：045-943-1863

<http://www.tuzuki-shakyo.jp/>

E-mail：info@tuzuki-shakyo.jp

